

弟子の掟④

2011/7/17

シリーズ～弟子道～

マタイ福音書5章33～37節

「また、あなたがたも聞いているとおり、昔の人は、『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。一切誓いを立ててはならない。天にかけて誓ってはならない。そこは神の玉座である。地にかけて誓ってはならない。そこは神の足台である。エルサレムにかけて誓ってはならない。そこは大王の都である。また、あなたの頭にかけて誓ってはならない。髪の毛一本すら、あなたは白くも黒くもできないからである。あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。」

「誓い」(誓願)制度について

- 当時、イスラエルでは、神様にお願いする時、周囲の人々に宣言し、願いが叶ったらお礼の献げ物をする「誓願」という制度があった
 - 「人が主に誓願を立てるか、物断ちの誓いをするならば ...」<民数記30:3>
 - 病気、子ども、収穫、安全、「ナジル人の誓願」
- パウロも何かを願って誓願を立てていた
 - 「パウロは誓願を立てていたので、ケンクレアイで髪を切った。」<使徒18:18>

軽んじられた誓願制度

- 立てた誓願は必ず守らねばならなかった
 - 「唇に出したことはそれを守り、口で約束した誓願は、あなたの神、主に誓願したとおりに実行なさい。」＜申命記23:24＞
- 「主」にではなく、「天」・「地」・「エルサレム」などにかけて誓った
 - 破ったときに、律法違反にならないために！
- イエス様は自分に都合良く律法をねじ曲げることを非難された！

誓ってはいけないのか？

- アメリカでは裁判で証言するとき、聖書に手を置いて誓う。結婚式の誓いは？
 - "I swear to tell the truth, the whole truth, and nothing but the truth, so help me God."
- イエス様は、もともと守ろうとする気持ちもないのに、軽々しく誓うな、と言われたのである
 - 何にかけて誓ってもすべて神様に誓うのと同じ
 - 神様はどんな祈りにも誠実に答えて下さる

神様に対する誠実さ

- 私たちは、主の弟子として、神様に対して誠実に生きているだろうか？
 - 託された時間やお金を正しく使っているか
 - 聖書の言葉を、自分に都合良く解釈したり、無視したりしていないだろうか
- 神様に対して、言い訳をしたり、後回しにしていることはないだろうか
 - 私たちには未来の保証はない！

現代人の傲慢

- 科学や技術の発達により、何でも思い通りにできるかのように錯覚してしまっている
 - 「髪の毛一本すら、あなたは白くも黒くもできないからである。」＜5:36＞
- 東日本大震災は、人間の弱さや、人生のはかなさ、文明のもろさを教えてくれたのに...
- 必要なときだけ神様に頼り、自分で何とかできるときは忘れている

弟子の掟

- 全てのことを理解できている, 説明できる, と誤解している
 - できないときは神様に「なぜですか？」と訴える
- 無力と無知を自覚し, 全知全能の神の前にへりくだる
 - 「あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。」＜5:37＞
 - 神様と「駆け引きのない」関係を持ちなさい